

一橋大学名誉教授安丸良夫著作目録

一 著書

- 『日本の近代化と民衆思想』、青木書店、一九七四年
『出口なお』、朝日新聞社、一九七七年
『日本ナショナリズムの前夜』、朝日新聞社、一九七七年
『神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈―』、岩波書店、一九七九年
『近代天皇像の形成』、岩波書店、一九九二年
『方法』としての思想史』、校倉書房、一九九六年
- 二 編著
- 『民衆運動の思想』(『日本思想大系58』、庄司吉之助・林基氏と共編著)、岩波書店、一九七〇年
『民衆宗教の思想』(『日本思想大系67』、村上重良氏と共編著)、岩波書店、一九七一年
『出口王仁三郎著作集』第二巻、読売新聞社、一九七三年
『近代化と伝統―近世仏教の変質と転換―』(『大系 仏教と日本人11』)、春秋社、一九八六年
- 『世直しとええじゃないか』(『週刊朝日百科 日本の歴史94』)、朝日新聞社、一九八八年
『宗教と国家』(『日本近代思想大系5』、宮地正人氏と共編著)、岩波書店、一九八八年
『民衆運動』(『日本近代思想大系21』、深谷克己氏と共編著)、岩波書店、一九八九年
『監獄』の誕生』(『朝日百科日本の歴史別冊 歴史を読みなおす22』)、朝日新聞社、一九九五年
- 三 論文(著書未収載のもの)
- 『共同研究 戦後の天皇制』(井上和子・鈴木良氏と共著)、『黎明』、一九五五年
『吉田松陰における尊王攘夷思想の展開』、『ちんれつかん』第一号、一九五六年
『尊王攘夷運動と公武合体運動』、『明治維新史研究講座』第三巻、平凡社、一九五八年
『思想としての現代社会科学―丸山真男・大塚久雄の検討―』(芝原拓自・鈴木良氏と共著)、『新しい歴史学のために』六

三号、一九六〇年

「近世思想史における道徳と政治と経済―荻生徂徠を中心に―」、『日本史研究』四九号、一九六〇年

「近代的社会観の形成」、『日本史研究』五三号、一九六一年

「近代社会への志向とその特質」、日本史研究会編『講座日本文化史』第六卷、三一書房、一九六三年

「海保青陵の歴史的位置」、『名城大学人文紀要』第一集、一九六三年

「世直し」状況下の民衆意識、佐々木潤之介編『世直し』

（『日本民衆の歴史』第五卷、三省堂）、一九七四年

「大本教と「立替え立直し」、朝日新聞社編『思想史を歩く』下、一九七四年

「百姓―揆の思想―民衆の願望と情念回復の闘い―」、『現代農業』一九七八年八月号

「生活思想における「自然」と「自由」、相良亨他編『講座日本思想―自然』、東京大学出版会、一九八三年

「困民党の意識過程」、『思想』七二六号、一九八四年

「排仏論から団体神学へ」、『仏教史学研究』二八巻一号

「近代天皇制の精神史的位相」、歴史学研究会編『天皇と天皇制を考える』、青木書店、一九八六年

「近代化」の思想と民俗、『日本民俗文化大系―風土と文化―日本列島の位相―』、小学館、一九八六年

「近代化日本の知識人と社会―自由・文明・ナショナリズム―」、『イタリアの自由主義国家と明治時代』（第一回日伊歴史学会議事録）、一九八七年

「百姓―揆の高揚」、『週刊朝日百科 日本の歴史81』、朝日新聞社、一九八七年

「近代天皇像の形成」、『週刊朝日百科 日本の歴史109』、朝日新聞社、一九八八年

「近代天皇像の形成」、『歴史評論』、一九八九年

「地域文化の展開―本田家の人びと―」、『国立市史』中巻、一九八九年

「近世の谷保天満宮」、『国立市史』中巻、一九八九年

「近代転換期の天皇像」、『思想』七八九号、一九九〇年

「近代天皇制と民衆意識」、『社会思想史研究』一五号、一九九一年

「明治一〇年代の民衆運動と近代日本」、『歴史学研究』六三八号、一九九二年

「民権運動の系譜」、町田市立自由民権資料館編『自由民権』七号、一九九三年

「監獄」の誕生、『立命館言語文化研究』六巻二号、一九九四年

「一八五〇―七〇年代の日本」、『岩波講座日本通史16 近代1』、一九九四年

「現代の思想状況」、『岩波講座日本通史21 現代2』、一九九五年

「民衆宗教と近代という経験」、『天理大学おやさと研究所年報』三号、一九九六年

「従軍慰安婦」問題と歴史家の仕事、『世界』六四八号、一九九八年

「従軍慰安婦」問題」、『第三十八期一橋フォーラム21』9、一九九八年

「近代家族」をどう捉えるか」第七回全国女性史研究者交流のつどい実行委員会編『新シレニウムへの伝言』ドメス出版、一九九九年

“Folk Religion and Spiritual Belief in Modernizing Japan” in: *Intellectual Creativity in Endogenous Culture: The United Nations University* 1978

“Rebellion and Peasant Consciousness in the Edo Period” in: *Sent Ethnological Studies* 13, 1984

“Millenarianism in Omotokyo (A Popular Religious Sect in Modernizing Japan)” in: Ed. by Ishii Yoneo, *Millenarianism in Asian History*, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、一九九三年

四 書評・批評・座談会その他(著書未収載のもの)

「書評・神島二郎『近代日本の精神構造』」、『日本史研究』五六号、一九六一年

「近代日本の思想構造—丸山真男著『日本の思想』を読んで—」、『新しい歴史学のために』七六号、一九六二年

「書評・坂田吉雄編『明治維新史の問題点』」、『歴史学研究』二七二号、一九六三年

「書評・色川大吉『明治精神史』」、『東京経済大学人文自然科学論集』八・九合併号、一九六五年

「安藤昌益の『唯物論』について」、『古典文学大系85 沙石集』

月報、岩波書店、一九六六年

「書評・色川大吉『明治人 その青春群像』」、『日本歴史』二一七号、一九六六年

「日本社会の病理の追求」(書評・藤田省三『天皇制国家の支配原理』、『展望』九四号、一九六六年)

「丸山真男『日本政治思想史研究』」(紹介と批評)、歴史科学協議会編『歴史の名著(日本人篇)』、校倉書房、一九七〇年「学問の外辺で」、『堀江英一著作集』第三卷月報、青木書店、一九七六年

「現代における民衆意識」(シンポジウム、田中義久・古田光氏と)、『現代と思想』二四号、一九七六年

「日本の思想と民衆思想」(対談、鶴見俊輔氏と)、『現代と思想』二八号、一九七七年

「不安の伝播」、『日本民俗文化大系① 色川大吉『柳田国男』』月報、講談社、一九七八年

「正造馬鹿」、『田中正造全集』第一四卷月報、岩波書店、一九七八年

「近世・近代の民衆思想と天皇制」(講演)、『日本史教育研究』七三号、一九八〇年

「歴史家の想像力が問われる時代」(対談、神島二郎氏と)、『朝日ジャーナル』一九八二年三月二五号

「体系を拒否し「経験」に固執する姿勢」(書評・藤田省三『精神的考察』、『朝日ジャーナル』一九八二年七月九日号

「一九八二年度歴史学研究会大会全体会報告批判」、『歴史学研究』五一〇号、一九八二年

- 「時代の転換期をあざやかに象徴」(書評・『秩父事件史料集成』第一巻)、『週刊読書人』一九八四年四月二日号
- 「神仏分離と京都」、『京の社(やしろ) 神々と祭り』、人文書院、一九八五年
- 「鎮魂帰神と王仁三郎」、『新評論』三六号、一九八六年
- 「書評・中内敏夫『新しい教育史―制度史から社会史への試み―』」、『教育』四九一号、一九八八年
- 「『日本近代思想大系』発刊に際して」(座談会、遠山茂樹・網野善彦氏と)、『函書』一九八八年六月号
- 「『日本近代思想大系』刊行に寄せて」、『中国新聞』他、一九八八年
- 「非言語的な政治空間を担った御真影」(書評・多木浩二『天皇の肖像』、『朝日ジャーナル』一九八八年九月二日号
- 「天皇は精神安定装置」、『東京大学新聞』二七三〇号、一九八九年
- 「書評・部落問題研究所編『部落史史料選集』第三巻」、『部落』五一五号、一九八九年
- 「『秩父事件史料集成』完結に寄せて」、『中国新聞』他、一九八九年
- 「天皇の権威はどのようにつくられたか」(講演)、『第十九回民主教育をつくる国民大集会・記録』、一九九〇年
- 「近代天皇像はどうつくられたか」(講演)、紀元節連絡会議編『国民主権と天皇制』、あずみの書房、一九九〇年
- 「今、なぜ天皇制か、天皇制の過去・現在・未来」(Debate、色川大吉・網野善彦・赤坂憲雄氏と)、『別冊文芸 天皇制』
- (歴史・王権・大嘗祭)、『河出書房新社、一九九〇年
- 「中小企業に活用できる尊徳の思想」(談)、『日経ベンチャー』七六号、一九九一年
- 「福田徳三の江戸時代観」、『如水会々報』七三七号、一九九一年
- 「近代天皇制と国民統合」(講演)、『法政平和大学講義録7(第IX期)』、一九九一年
- 「明治一〇年代の民衆運動と近代日本」(報告要旨)、『歴史学研究』六三三二号、一九九二年
- 「公論」世界と国民国家―日本における近代―(鼎談、宮地正人・山室信一氏と)、『思想』八三二号、一九九三年
- 「透谷、あるいは精神の原風景」、『機』四二号、一九九四年
- 「戦後歴史学と色川史学」、『色川大吉著作集』第一巻月報、筑摩書房、一九九五年
- 「例外状況のコスモロジー―国家と宗教―」(インタビュー)、『現代思想』二三巻一〇号、一九九五年
- 「戦後五〇年、記憶の地平」(対談、キャロル・グラック氏と)、『世界』一九九五年
- 「故郷との対照 研究の根底に」、『北日本新聞』一九九六年一月九日号
- 「『脱構築』の時代」、『岩波講座日本通史25 別巻4』月報、岩波書店、一九九六年
- 「宗教と現代日本」、『如水会々報』七九一号、一九九六年
- 「語りえぬことを語るについて」、永原慶二他編『歴史家が語る 戦後史と私』、吉川弘文館、一九九六年

「書評・杉原四郎他編『田口卯吉と東京経済雑誌』、『経済研究』四七巻四号、一九九六年

「『慰安婦』問題と歴史学」(インタヴュー)、『季刊戦争責任研究』一八号、一九九七年

「さしあたっての一冊」、『石井進編『歴史家の読書案内』、吉川弘文館、一九九八年

「民衆宗教と近代日本」、『如水会々報』八二六号、一九九九年